

第207号

二〇二四年九月号

OB・Gニュース

発行責任者

社民党がんばれOB・G福島の会

eメール huruyarnichtatsu@orange.plala.or.jp

【8月22日】二十四節気の

「処暑」。だが…真夏並みの

暑さ、新たな台風の発生も。

9月も続くのか……………

「史上最も暑い7月」が確実に

国連事務総長「地球沸騰の時代来た」

毎年我が家の庭にある紫ランの葉の裏側にセミの抜け殻を一つ見つけてきた。蝉が羽化して成虫になる確率は30%前後と言われている。また羽化をしても天敵に襲われたりする。その短いセミの一生であるが、今年はなぜ羽化ができなかったのか。普段はうるさいくらい鳴き声も聞かない。

また梅雨の時期、公園などでよく見掛けたカタツムリの姿が少なくなっているという。それは市街地化の進展もあるが乾燥化が大きな原因であり、酸性雨などによる土壌環境の変化が影響している可能性が高いと識者は述べている。

2023年、日本は最高気温の更新と連続する記録づくめの暑い夏を経験した。そして今年はそのを上回る高温が続くという。国連のグテーレス事務総長は2023年7月27日の記者会見で「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が始まった」と発言している。さらにこの会見の同日、世界気象機関と欧州委員会の気象情報機関は、同年7月が人類史上最も暑い月となることを裏付ける公式データを発表した。

さらに2024年に入つて早々に、この世界的な気象機関が、2023年の世界の気温記録が更新され産業革命前の1850〜1900年の平均より1.5度近く上昇。人類史上、最も暑い月となるこ

とを裏付ける公式データを発表した」。

現にグテーレス事務総長が地球沸騰化に言及した同年7月までの7か月間だけでも、ほぼ毎月世界のいずれかの地域で自然災害が発生していた。

◆1月：南スーダン 歴史的洪水被害で47,700平方キロメートルが浸水。

◆1月から2月：チリで 10年続く「メガ干ばつ」により広がる火災。

◆2月から3月：南東アフリカを襲ったサイクロンが1,000人の命を奪う。

◆4月：インド・バングラデシュ・タイ 「アジア史上最悪」の熱波。

◆5月：少数民族ロヒンギャの人々を襲ったサイクロン・モカ。

◆5月：イタリヤ 1日半の間に降った雨量が6カ月相当の大雨。

◆5月：ルワンダ 災害死者数が史上最多となった洪水。

◆6月：日本 台風2号で49名が死傷。

◆7月：カナダの森林火災900万ヘクタールが焼失。

◆7月：島根県、九州北部、秋田県で記録的大雨。(2023年7月18日・朝日新聞)

そして今年も日本の至る所で、異常高温・大雨・洪水で多くの命、財産、そして縁を失っている。

願うだけでは、平和はおとずれません

家族や友達と語ろう、

世界を変えるために

子ども代表「平和への誓い」

平和への誓い目を閉じて想像してください。

緑豊かで美しいまち。

人のにぎわう商店街。

まちにあふれるたくさんの笑顔。

79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな日常がありました。昭和20年(1945年)8月6

日 午前8時15分。

「ドーン!」という鼓膜が破れるほどの大きな音。

立ち昇る黒味がかつた朱色の雲。人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。

ある被爆者は言います。

あの時の広島は「地獄」だったと。

原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまったのです。被爆者である私の曾祖母は、当時の様子を語ろうとはしませんでした。言葉にすることさえつらく悲しい記憶は、79年経った今でも多くの被爆者を苦しめ続けています。

今もなお、世界では戦争が続いています。

79年前と同じように、生きたくても生きることができなかつた人たちが、明日を共に過ごすはずだった人を失った人たちが、この世界のどこかにいるのです。本当にこのままでよいのでしょうか。

願うだけでは、平和はおとずれません。

色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。

(2ページに続く)

一人一人が相手の話をよく聞くこと。「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。

仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。私たちにもできる平和への一歩です。

さあ、ヒロシマを共に学び、感じましょう。

平和記念資料館を見学し、被爆者の言葉に触れてください。

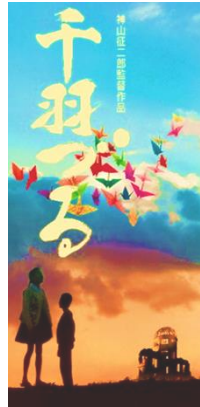
そして、家族や友達と平和の尊さや命の重みについて語り合います。

世界を変える平和への一歩を今、踏み出します。

令和6年(2024年)「8月6日」こども代表

広島市立祇園小学校6年 加藤晶

広島市立八幡東小学校6年 石丸優斗



【ちょっとひと言】

気づいたこと・感じたこと

当時・私たちも軍国少年であった！

年金生活の身、現役時代の朝は子どもを起し朝食。そして自転車の前と後ろに子どもを乗せて保育所へ。当時は自家用車を持つているのはごくごく僅か、それが妻も職場を持つ共稼ぎの日常であった。そして退職、今は「老々世帯の身」、朝食後の朝ドラは楽しみの一つになっている。

前号には「虎に翼」の場面にあった戦後の戦災孤児に触れた。読者からの感想が寄せられている。

そこで今般もう一つの場面を取り上げたいと思

う。「寅子」が赴任をした新潟の地裁判事である「星航一」の独白の場面がある。

いわゆる「1940年(昭和15年)9月30日付施行された(総力戦研究所)の一員であった者として戦争を止められなかったこと、そして多くの命を失ったことへの自らの責めである。

模擬閣僚となった研究生たちは、研究所側から出される想定情況と課題に応じて軍事・外交・経済の各局面での具体的な事項(兵器増産の見通しや食糧・燃料の自給度や運送経路、同盟国との連携など)について各種データを基に分析し、日米戦争の展開を研究予測した。

その結果は、「開戦後、緒戦の勝利は見込まれるが、その後の推移は長期戦が必至であり、その負担に日本の国力は耐えられない。戦争終末期にはソ連の参戦もあり、敗北は避けられない。ゆえに戦争は不可能」という「日本必敗」の結論を導き出した。

研究会閉会に当たって当時の内閣総理大臣、東条英機は次のように述べている。

「諸君の研究の労を多とするが、これはあくまでも机上の演習でありまして、実際の戦争というものは、君達が考えているような物では無いのであります。日露戦争で我が大日本帝国は勝てると思わなかった。然し勝つたのであります。あの当時も列強による三国干渉で、やむにやまれず帝国は立ち上がったのであります。勝てる戦争だからと思つてやったのではなかった。戦というものは、計画通りにいかない。意外裡な事が勝利に繋がっていく。したがって、諸君の考えている事は机上の空論とまでは言わないとしても、あくまでも、その意外裡の要素というものをば考慮したものではないのであり

ます。なお、この机上演習の経緯を、諸君は軽はずみに口外してはならぬということでありませう」。

(出典:フリー百科事典『ウィキペディア』)より

そして考える。当時子どもであった私たちも『軍国少年』であった。戦争は決して負けない。攻めてくる米国の艦船は『神風』により日本近海で打ち砕かれる。そして「無敵艦隊」が出勤する。母親たちは竹やりをもって敵と戦う訓練をしていた。学校の先輩男性は野戦訓練、女性性は軍需工場に。そして日本は絶対に負けな

いと実は信じこまされていた。それを物語るのが前記の東条英機の言葉であろう。戦争の記憶をたどれば多くの場面で学ぶものがある。精神論は恐ろしい。その材料を取り上げそして語り続けることが今を生きる私たちの責任とと思うが、どうだろうか。次号で「今、考える戦争の記録」を取り上げたい。

認知症で資産凍結されることを考える

認知症になると、自動的に資産が凍結されるわけではありません。銀行や証券会社といった金融機関の口座は、次のようなタイミングで凍結されることとなります。

◆口座名義人が認知症になったことを家族が金融機関に伝えたとき。

◆口座名義人が、認知症などにより判断能力が低下していると金融機関が判断したとき。

後者については、「カードの暗証番号を何度も忘れる」「窓口で何度も同じ手続きや問い合わせを繰り返す」など。そして認知症による認知機能や

報告・提言のひろば



■党員の高齢化による活動力低下は全国どこでも同じだろうと思います。神奈川県では7月23日、26日、県内各地において原水禁世世界大会に向けた平和行進を行いました。私は最近椎間板ヘルニアによる脚の痛みが出ることもあり、今年は参加を断念せざるを得ませんでした。デモ行進などへの参加は少なくなりましたが「社民党の見える化」と、比例票の獲得をめざして定期的な街頭宣伝行動は続けています。またより多くの党員やサポーターが宣伝行動に参加できるように、県内各地で行われる街頭宣伝の予定などをメーリングリストで必ず広報するようにしています。そのためか川崎で毎月開催している街宣行動には、若手の党員やサポーターの方が多く参加してくださるようになりました。工夫を重ねていきたいと思っています。

■福島県内でも最高気温が37.1度になりました。熱射病にならないよう水分を取りながら過ごしています。あと何年くらい党の体勢が維持できるか。不安で甚だ心細い限りです。とにかく運動に60代、つまり退職者の皆さんに参加をしてもらわなければなりません。しかし現実は大変困難です。労働組合との交流もほとんどなく、これは以前から言われてきたことですが私たち自身も地域で労働者との関わりを持ってこなかったことの表れだと思います。先ず本気で党内議論をし、一人でも二人でも具体的ななかかわりをつくることだと思います。

■毎日が身体に応える暑さです。クーラーのお世話

話になって過しています。それとこまめな水分補給、気が付くと忘れていきますので気を付けています。私事ですが7月25、26日の二日間恒例の「出羽三山」詣でに団体(18名)で行って来ました。特段の信仰心があるわけではありませんが「牛にひかれて善光寺」の口です。宿坊に泊り山菜料理を食し美味しい酒を飲む事が行く大きな理由です。当日は生憎の山形のゲリラ豪雨に遭遇しえらい目に会いました。夜中には全員がスマホに集中、警戒アラームが響き大変でした。8月3日(土)は地域の「夏祭り」が予定されています。手伝いの真似事で参加します。

■東京都知事選について社民党の総括はどのような行動ができるのかを話し合いました。そしてできるだけ多くの人たちに蓮舫支持を電話や直接の面談で訴えることにしました。限界がありますが何とせずついに責任を果たそうということになりました。結果は惨敗です。どのような総括をすればよいのか悩んでいます。広島県の市長だった人が市長をやめ東京知事選に立候補し、蓮舫候補よりも多くの票を得ました。この結果をどうとらえるか真剣な議論が求められていると思います。

■熱があるので病院へ行ったら「コロナ」と診断されました。7月11日から38.9度の熱が三日の間続きました。しかも家族全員が感染していました。8月号のニュース「自衛隊子ども食堂への勧誘」は、自衛隊に入隊すれば高校の卒業資格は取れる、基地内では三食が支給され、月額11万7千円という。まさに「経済的徴兵制」です。

■自衛官の経済的徴兵制の記事に背筋が寒くなりました。朝ドラ「虎と翼」を見ています。実際に今起きている戦争をSNSなどで見ている世代で

あつても、自分ごととして感じるのはごく僅かだろうと思います。紙おむつのリサイクルについてはテクノロジーの力で何とかできないかと思っています。生ゴミについては、出来るだけ堆肥に思っています。虫に悩んでいます。生ごみは虫や微生物がいなければ土に戻りません。勝手なのは人間です。

■暑い日が続きます。つい家にこもりがちの日々です。もはや就寝時だけではなく日中もクーラーなしでは生活できなくなってしまうました。温暖化加速に一役買っています。パリ五輪のニュースが多いせいか、新聞もスマホのニュースも「タイトル読み」で流すことが多くなりました。そんな折、SNSの影響で若者の文章理解能力が低下している、キーワードに反応して言葉じりで理解するという意見を目にしました。言葉・文章が力をなくした時、社会に何が起るのか不安になります。デジタルネイティブなSNSを駆使する世代には、世界が全く違って見えているのかもしれないと思ったりします。一方、自分自身のことを考えても、長い文章を読む根気が減り、年齢のせいも結論を得るのに短気になっているなど反省することが増えました。

■毎号読んでいます。新自由主義の矛盾が噴出し、その脱出口が見いだせない世界の状況がよく表れています。この混乱を脱するため頑張らましよう。■再度コロナにかかりました。公費負担が無くなくなり窓口負担が2万から3万円の薬代。「薬はいらない」という患者も増えていることが報じられています。「罹病し、薬が必要と診断されながらもそれを断る」という事態、まさに政治の貧困を証明するものです。

